

# 日本語学習者における接続詞の習得--留学生の接続詞使用状況

著者名(日)	倉持 益子, 鈴木 秀明
雑誌名	神田外語大学紀要
巻	19
ページ	211-234
発行年	2007-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1092/00001223/">http://id.nii.ac.jp/1092/00001223/</a>

# 日本語学習者における接続詞の習得 —留学生の接続詞使用状況—

倉持益子・鈴木秀明

## 1 はじめに

留学生たちと会話を交わすとき、発表を聞くとき、作文を読むとき、ある共通した不自然さを感じる。それは、接続詞の使い方が、日本人とはかなり違うということである。また、読解を苦手とする学生が多く、これもマーカーとしての接続詞をうまく理解していないためである可能性がある。そこで、日本語学習者は、どんな接続詞をどのように使っているのか、日本語母語話者が日常よく使う接続詞をどこまで理解しているのかを調べ、浮かび上がった問題点の原因と解決法を探る必要性を感じ、今回の研究へと踏み切った。今回はその第一歩として、現状報告を中心に報告したい。

## 2 先行研究

日本語学習者が接続詞をどのくらい理解し使用できているかという研究報告として、青木他(1994)がある。これは、英語母語話者である学習者への接続詞意識調査の結果と、接続詞理解のための教材案、その使用による効果についての報告である。これによると、学習者は、英語接続詞からの推測で日本語接続詞を選ぶ傾向が見られ、その結果誤用・非用・過用を招いているとしている。その原因として、教材においては簡単な説明のみで、学習者の運用にまで至らなかったこと、教師も接続詞の重要なこととして、さほど認識していない傾向を挙げている。また、アンケートの結果で指導前と指導後の

接続詞の使用頻度の変化を挙げ、指導後に使うようになった接続詞を明らかにしているのは興味深い。近年には横内(2006)において、初中級から中級レベルを対象とした調査結果から、文末以外で丁寧形と非丁寧形との対立が生起する接続詞や従属節において、適切な形態が用いられている談話は、全体の26%にすぎないという報告がなされている。青木他(1994)の報告は、学習者が誤用を招く原因において非常に示唆に富むものである。そして、そのアンケートも、指導によって学習者の使用はどう変化したかという大変意義深い報告となっているが、それは学習者本人の自己申告で、実際それが自然な使い方なのか、不自然なのかは不明である。横内(2006)も調査対象とした接続詞が限定されている。

青木他(1994)では、接続詞の運用力の問題は、教師の意識の他に教材の扱いによると指摘している。そこで、本調査の過程で日本国内の教育現場で一般的に使用されている初級から中級までの主な教科書を複数調査してみたところ、接続詞は初級から中級にかけて基本的なものが数多く提出されているものの、独立した項目として取り扱っている教科書は非常に少ないことが判明した。多くの教科書では接続詞は本文と呼ばれる読み物の中に登場し、読解を通して意味を理解するにとどまっている。なお、今回の教材分析で扱った調査対象は、2006年7月の時点で日本語書籍の出版・販売会社である凡人社の売れ行きが高いものにした。

以上の点をふまえて、本調査では、対象とする接続詞を横内(2006)より広く取り、中級レベルが接する可能性が高い約50とし、また、青木他(1994)が行わなかった接続詞テストと接続詞使用に関するアンケートを組み合わせ、自分が使えると思っているものは実際母語話者からみて正用なのかを見、さらになぜこの接続詞をこの場で用いたのかをフォローアップインタビューで聞くことにした。

### 3 本調査

#### 3-1 調査目的

本調査は、以下の質問に答えるべく計画され実施された。

- 1 日本語学習者の接続詞の使用にはどのような特徴がみられるか。
- 2 日本語学習者の接続詞テスト結果に、学習者の背景の違い（日本滞在歴や日本語習得過程など）による影響が見られるか。

#### 3-2 調査協力者

本調査には日本語学習者8名（男性1名、女性7名）が協力者として参加した（注1）。学習者の母語背景は、中国語話者2名、タイ語話者2名、インドネシア語話者1名、韓国語話者2名、ベトナム語話者1名であった。調査参加の時点で、学習者は全員日本国内の大学留学生別科の中級レベルに在籍していた。なお、本調査においては、日本語を述べるという経験に乏しいことや、接続詞を必要とする状況があまりないことから初級レベルの学習者は対象者からはずした。また、調査時に同留学生別科の上級クラスに在籍する留学生が非常に少なかったため（調査時は3人）、今回は中級レベルのみで比較検討することにした。学習者の日本滞在年数は6ヶ月から～7年までであった（表1）。

表1 調査協力者の背景

I D	出身国	日本滞在歴	日本語学習歴とその内訳
NO 1	インドネシア	3年半	(日本語自然習得) KUIS で半年
NO 2	中国	7年	(日本語自然習得) KUIS で半年
NO 3	ベトナム	半年	(大学の主専攻で4年学習) KUIS で半年
NO 4	中国(朝鮮族)	半年	(中学・高校で6年その後独学) KUIS で半年
NO 5	中国	1年半	(中国で半年学習) KUIS で1年半
NO 6	タイ	半年	(大学の主専攻で3年学習) KUIS で半年
NO 7	タイ	半年	(大学の主専攻で3年学習) KUIS で半年
NO 8	ニュージーランド	半年	(大学の主専攻で3年学習) KUIS で半年

\* KUIS (KANDA UNIVERSITY OF INTERNATIONAL STUDIES) 神田外語大学の通称

### 3-3 材料(対象語の接続詞)

本調査では、調査の対象とする接続詞を横内(2006)より広く取り、中級レベルが接する可能性が高い約50語とした。接続詞の選定にあたっては、1) 過去10年能力試験2級(中級レベル)で使われている接続詞、2) 国内外の日本語初級・中級の教科書で学習項目として取り上げられているもの、あるいはよく使用されている教科書に出てくる接続詞、3) 日本語母語話者が会話・発表・メール・書き言葉でよく使う接続詞という3つの基準に基づいて中級レベルの学習者に必要とされるものを選んだ。

## 3-4 調査タスク

本調査では、接続詞テスト、接続詞使用に関するアンケート、フォローアップインタビューの3つのタスクを実施した。

接続詞テストは、テスト形式として、自由回答式文章完成問題の出題形式を用いて作成された。前述した約50語の中から8語を使用した。テストで使用した接続詞は表2のとおりである。設問設定の基準は、中級レベルの学習者が読む参考書、能力試験の問題、レストランなど日常生活で遭遇する場面から選んだ。作成された計9問の中には書き言葉のみで使用される接続詞、話し言葉のみで使用される接続詞も取り入れられた(注2)。

表2 接続詞テストで使用した各問題ごとの接続詞

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
接続詞	したがって	そして	それで	すると	そして	しかし	じゃ	だって	それから

問題文の作成および、問題の妥当性・適切性に関しては調査者2名が慎重に協議し、両名の意見一致をみるまで修正を行った。以下に接続詞テストの例を挙げる(表3)。

表3 接続詞テストの問題例

図書館で勉強しようとしたんだけど込んでいてね。うちはうるさいし。  
( ) 喫茶店へ行って勉強することにしたんだ。

次に、接続詞使用に関するアンケートでは、日本語でよく使う接続詞、よく目にする、よく耳にする、知らない、よくわからない接続詞を選ぶという多肢選択式のアンケートを実施した(注3)。また、よく使う接続詞のところではさらに、会話・作文・メール・その他に下位分類し回答させた。

フォローアップインタビューは、接続詞テストとアンケートの実施後に、学習者へのフィードバックを兼ねて実施した。インタビューでは、アンケートの確認に加え、なぜテストでこの回答を選択したのかという理由と、接続詞に対する意識について質問した。また、自分が使えると思っているものは実際日本語母語話者からみても正用なのかを判断し、さらになぜこの接続詞をこの場で用いたのかについても合わせてたずねた。

### 3-5 手順

調査は2006年7月から9月にかけて、日本国内の大学において、学校の正規授業時間以外に行われた。調査は、まず目的と手順について簡単に説明をした後、接続詞テスト(約20分)が課された。続いて接続詞に関するアンケート(15分)を実施し、その後、学習者に個別にフォローアップインタビューを行った。調査全体に要した時間は、全体で約1時間程度であった。調査者は調査開始から終了まで立ち会った。なお、調査中の学習者には辞書や参考書の使用を禁止した。各調査協力者に関するデータはすべてID番号を用いて処理された。

### 3-6 分析方法

調査で得られた測定結果は個別に採点された。点数は、正解1つにつき2点で、9問で合計18点満点とした。丁寧さレベル、書き言葉か話し言葉かなどの違いは1点与えた。接続詞テスト結果の分析には得点を%に換算したものを使用した。また、アンケート結果およびフォローアップインタビューに関しても個別にデータを分析した。

## 4 結果と考察

### 4-1 接続詞テスト

調査協力者全体の接続詞テストの正答率の平均は18点満点中9.3点(51.6%)であった。また、協力者の個別の点数を見ると、最低点は4点、最高点は14点であった(表4)。

表4 接続詞テストの正答率

被験者 NO	正解率	出身	日本滞在	備考
1	50%	インドネシア	3年半	日本語自然習得、KUISで半年
2	33.3%	中国	計7年	日本語自然習得、KUISで半年
3	44.4%	ベトナム	半年	大学の主専攻で4年学習 KUISで半年
4	22.2%	中国(朝鮮族)	半年	中学・高校で6年その後独学 KUISで半年
5	33.3%	中国	1年半	中国で半年学習、KUISで1年半
6	55.5%	タイ	半年	大学の主専攻で3年 KUISで半年
7	72.2%	タイ	半年	大学の主専攻で3年 KUISで半年
8	80%	ニュージーランド (韓国系)	半年	大学の主専攻で3年 KUISで半年

設問を中級レベルで知っているはずの接続詞に限定したことを考えると、全体的に低い正解率といわざるをえない。下位3名を見ると、滞在7年の自然習得者であるNO2と中学・高校で日本語を学習し、その後数年間独学を続けたNO4が含まれている。また、もう一名が初級からKUIS別科で学習



している学生だったのは、その指導に携わっている調査者としても困惑する結果となった。もう一名の自然習得者NO 1も、正解率は決して高いとはいえない結果であった。これに対して、大学の主専攻で日本語を学んだ4名の被験者たちの平均は58.3%である。

次に、設問ごとの正答率を示したものが表5であるが、設問によって正答率に大きな差があった。設問番号⑥と⑦は75%以上の正答率であったが、設問番号④、⑤、⑨は25%以下の正答率であった。この結果から、接続詞の種類によって問題の難易度が異なっていることが推測される。以下では、この点について、設問ごとに見ていく。

設問④は「すると」を期待した設問だが、この「すると」は、中級までの教材であまり現れておらず、日常的にも高頻度に使用されるものではないが、中級にあたる能力試験2級の出題基準に含まれ、過去には3級にも出題されたことがある接続詞である。(注4) この能力試験基準が果たして適当かどうかを問う一助とするため、今回設問に加えた。また、設問⑥には「だって」という回答を期待したが、これは日常よく聞かれるにも関わらず、教材として扱っているものはわずかである。調査者の所属機関で使用している教材でもこの語は扱っていない。こうした点をふまえて、既習項目ではないが頻繁に接する語が理解できるかどうかを知るために、設問として加えた。

表5 接続詞テストで使用した各問題ごとの接続詞

番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
接続詞	したがって	そして	それで	すると	そして	しかし	じゃ	だって	それから
正答率	62.5%	50.0%	68.7%	25.0%	12.5%	87.5%	75.0%	50.0%	12.5%

\* 正解率は、上記の接続詞そのままを使ったものだけでなく、文脈上、十分自然に感じられるものは全て正解とした。(例⑥「でも」も、正解)

## 日本語学習者における接続詞の習得

### 4-2 接続詞に関するアンケート

協力者に実施した接続詞に関するアンケートを実施した結果、よく使う接続詞、よく耳にする・目にする接続詞は、日本に長期滞在している学習者の方が短期滞在の学習者よりも多かった。一方、分からない言葉、自信がない言葉ともなると、学習方法の差というより、個人での差が大きい(表6)。

表6 接続詞アンケートに対する回答数

被験者	会話	作文	メール	目にする	耳にする	知らない	わからない
1 自然習得	26	17	21	8	26	2	2
2 自然習得	17	17	23	31	26	5	9
3 学校学習	12	9	11	5	16	6	8
4 学校学習	7	13	3	10	11	3	5
5 学校学習	20	14	9	25	29	2	8
6 学校学習	11	9	7	18	15	2	1
7 学校学習	20	20	10	18	21	1	3
8 学校学習	10	16	17	15	21	4	4

\*被験者4は数年間の独学期間を経ている。

被験者5は日本滞在歴は1年半と長いものの、日本語学習歴は2年と被験者で最も短い。

会話でよく使う接続詞の中に「このように」「最後に」「さらに」「すると」「第一に」というものが少数ながら選ばれている。おそらく誤用と知らずに使っ

ているのではないか。また、作文でも「で」という会話特有の接続を選択している協力者がいたが、これも誤用の疑いが強い。最も多く不自然な使い方を選択したのは、日本滞在歴の一番長い自然習得者である。さらに、メールで使う接続詞が、会話、作文とは別なものが選ばれているものが目立った。これらの結果は、彼らのコミュニケーションを考える上で興味深い。

#### 4-3 フォローアップインタビュー

接続詞テストとアンケートの後に協力者に対して個別にフィードバックを行った際のインタビューから、以下の5つの点が明らかになった。

- 1) 何人かの被験者が、話しているうちに接続詞の意味を取り違えていたことに気づき、訂正をしていった。

被験者2 「ああ、そうか。先生、私「すると」使い方違いました。わたし、話し時は「そうすると」よく使います。その「すると」知りませんでした。」

被験者2 「あ、先生、私「それから」の意味も違っていました。私は、「それから」は、「これから」と同じような意味だと思っていました。「これから家を出ます」とか・・・」

被験者4 「『したがって』は変化を表す接続詞でしょう？」

調査者 「それは、『～にしたがって』じゃない？」

被験者8 「『そこで』は会話でよく使います。『そこで会おう』と言うように」

調査者 「その『そこで』は接続詞じゃないですよ」

被験者8 「あー、私間違いました。」

他の被験者も、多かれ少なかれインタビューの中で、似たような間違いに気付いた。アンケートにも、テストにも「接続詞」ということが明記され、調査者も「接続詞を選びなさい」と口頭で伝えてからやらせたものであるに

## 日本語学習者における接続詞の習得

もかわらず、取り違えたり、副詞や感動詞を書き入れたりしていたことから、被験者、ひいては学習者の多くが接続詞の概念そのものを十分理解していないことをうかがわせる。

2) テストの解答には、彼らなりの根拠があった。

インタビューでは、「なんとなく」という答えはごく少数で、なぜこの答えを選んだかと聞くと、根拠を述べてくれた。ただ、それが意味を取り違えているものが目立った。

被験者3 「この場合は、驚きと喜びは、反対の気持ちだから『それに』を使いました。『そして』は、もっと、広い意味を述べます。たぶん、続くことに使います。(テストNO5について)

被験者5 「前と後ろ(の語)は、レベル差がないです。ですから『また』(テスト1で、なぜ『また』を入れたのかという質問に。正しくは『したがって』)

3) 文章そのものの意味を取り違えていた。

被験者2 「わたしは、(文章の)意味は間違いました。これは、文章の意味、手紙の意味、二つのこと説明していると思いました。」(テストNO1)

被験者3 「焼き鳥、トマト( )、フライドポテトというのは、トマトを食べ終わったから、次はフライドポテトをお願いしますという意味ですか」(テストNO9)

4) 被験者が不自然な答えが目立った項目

4-1) そして・それから

「そして」はよく聞く接続詞であり、初級で習うものだから自分では分かっているつもりだった、または「そして」はいろいろな意味に使える便利な接続詞だと思っていたという発言が見られ、本人たちの理解と実際の意味との間に差があることが分かった。「それから」との違いがよくわからないという声が目立った。

被験者1 「よくレストランに行って、(追加の注文に)『そしてこれ!』言いました」

被験者4 「『そして』は理由の意味と思いました」

被験者8 「(そしては、) 初級から習ったから、たぶん一番慣れていて、よく使っているので、使いすぎるのかもしれない」

4-2 「すると」

「すると」を会話やメールでよく使うといった被験者は「そうすると(こうなる)」というような意味でのみ捉えていて、予期せぬことが起こったときに使う「すると」は知らなかった。テストで正解を出した学生は国の大学の上級日本語のときに習ったと知っている。これが能力試験3級に出たと聞いて、被験者は一様に驚いていた。

被験者7 「『すると』は、上級の授業に出てきました。え、3級に出たことがある？」(正解者の感想)

被験者8 「『すると』は聞いたことはありますよ。読むときはわかりますが、使うときは使いにくいんです。あまり使わないので」

## 日本語学習者における接続詞の習得

### 4-3 「だって」

被験者全てが、この語は習っていないと答えたが、正解者は、日ごろ日本人と接していたら頻繁に耳にするからすぐに分かったといている。滞在半年の被験者でこの語に気がついたのは、NO 8 一人だけであった。

調査者 「『だって』は教科書にはなかなか載らないんですが」

被験者 8 「会話のとき、日本人の友達がよく言っているので覚えました。」

### 5) 接続詞全体について

被験者 5 を除き、ほとんどの被験者が、接続詞に不安と苦手意識を持ち、今回のテストでさらにその感を強くしている。インタビューをしているうちに、読解との関わりへの意識が希薄な被験者や、接続詞にあまり問題意識を感じていない被験者の発言に、更なる指導上の工夫が必要であることを感じた。

被験者 4 「読解の中で接続詞を入れる問題、よくまちがった」

調査者 「読解するとき、接続詞を気にしますか」

被験者 4 「あまり気にしません。私は全体を読んで内容を考えるので」

調査者 「接続詞は難しいですか」

被験者 5 「そんなに難しくありません。でも細かい所(使い分け)は気にしません」

### 4-4 調査タスクの結果から見えたこと

長期滞在者は自分で「よく使う」接続詞も知っている接続詞も多いとしているが、テストをした結果、長期滞在者の結果も、国で日本語教育を3年以上受けたグループも、個々で非常な差があった。しかし、1年半以上の滞在者3名のうち、2名が3分の一ほどの正解率しかなかったことを考えると、日本に長く住んでいても、文脈にふさわしい接続詞を使うことは難しいと言える。今回の調査では、そのことをあまり本人たちは自覚していなかったこ

とがわかった。また、国の高等教育機関で3年以上プロの日本語教師の指導を受けた学習者でも、独学や、自然習得よりは平均で高い数値になって入るが、さほど評価できる成績にはなっていない。接続詞の習得というのは学習者にとって困難な文法事項であることが、先行研究同様、今回の調査でも裏付けられた。

今回の調査結果から、以下のような今後の研究のヒントを複数見出すことができた。

- 1) 学習者は接続詞をよく耳にし、目にしている割に正確に使えない。
- 2) 接続詞習熟には日本滞在年数は関係なく、機関・教材・教え方などの学習方法の工夫が必要である。
- 3) 接続詞は自然習得しやすいもの（「だって」など）も一部あるが、しにくいものが多い。
- 4) これまで初級のものとしてきた「そして」「それから」、2級基準の「すると」に誤用が多い。

## 5 今後の課題と教育的示唆

今回の調査で、接続詞テスト、接続詞使用アンケートともに誤用が目立ったのは、日本での滞在期間が7年と最も長い自然習得者であった。もう一名の自然習得者も十分理解しているとはいいがたい結果であった。二名の被験者だけで傾向を示すことはできないが、これは接続詞というものが、自然習得しにくい可能性があることを示している。また、接続詞テストで比較的高成績を出した被験者でも、日本語母語話者が日常的によく使用するものでさえ知らなかったり、間違っ理解していたりした。このことは、日本語教育機関での指導法を省みる必要があるのではないだろうか。

教科書調査では、初級教科書での接続詞の扱いの軽さが目立った。ただ、初級レベルで接続詞を使用しなければならないものは、それほど多くはない

のではないだろうか。少なくとも、会話の中に高頻度で登場するものに限ってもいいのではないか。今回のテストで誤用が多かったもののうち、「そして」を例にとると、並列の「そして」は「しかし」とともに、接続詞の中では初級で最も早く登場する。しかし、日常的には、並列の「そして」は、主に書き言葉で使われる傾向が強く、初級で導入した「この部屋は広いです。そして明るいです」といった一つのものを二つの形容詞で表現するような機会はほとんどない。むしろ、中級で導入した方が、学習者の混乱は防げるのではないだろうか。(注5)

初級での接続詞の扱いが軽いなら、中級以降で充実させるというのが重要であるが、中級以降はいわゆる「機能語」の導入に力が注がれ、最も売れている教科書(注6)には、ほとんど接続詞習得の配慮が見られない。調査者が所属する教育機関で採用されている教科書も含め、それ以外の教科書には中級レベルの重要事項として積極的に接続詞を取り上げているが、扱う接続詞は、教材によって取り上げられていたりいなかったり、ばらつきが見られる。これらは、学習者の混乱の一因に教材があるという青木他(1994)の指摘を裏付ける結果になった。

## 6 おわりに

今回の調査は協力者数が8名であったため、調査人数が十分であるとは言いがたい。わずか二名の自然習得者で、全ての自然習得者の傾向を導き出すことは不可能であり、長期滞在者と短期滞在者、国の大学での主専攻とそれ以外の学習方法を経てきた者との差異も十分な説得力を持つものではないと自覚している。しかし、今後、数的なデータが充実すれば、まだ教授方法が途上である「接続詞」の扱い方も示せるのではないだろうか。

今後、この結果を踏まえて、上級レベルの学習者も含めた更なるデータを揃えとともに、接続詞に関する学習者の悩みを解決できるような指導法を考えていきたい。



注

- 1) 調査は授業外に行われ、協力者には当別科の規定により、個人研究費より謝礼を払った。
- 2) 本稿末資料1を参照
- 3) 本稿末資料2を参照
- 4) 95年3級読解問題V-(4)
- 5) 「そして」の初級での扱いに関しては、石黒2000で言及している。
- 6) 2006年7月、凡人社麴町店の協力で、春から7月現在までの販売上位3冊を教えていただいた。

参考文献

- 青木惣一・青柳久雄・大竹弘子・佐藤つかさ・谷すみゑ(1994)「よく使われる接続詞の教材作成と実施の報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要17』1頁～30頁
- 石黒圭(2000)「「そして」を初級で導入すべきか」『言語文化』第37巻 一橋大学研究室 27頁～38頁
- 市川保子(2000)『続・日本語誤用例文小事典』凡人社
- 横内美保子(2006)「日本語学習者の口頭表現にみられる文体の諸問題—学部学生による意見文(談話)の事例から」『南山大学国際教育センター紀要第6号』1頁～20頁

資料1 [接続詞テスト問題および回答一覧]

設問1

「です・ます体」この文体は、相手に話しかけるような気持ちで書く文章に適している。( ① ) 手紙文には「です・ます体」が多く使われる。[元の文 (したがって)]

正解者4人  
不正解：また

正解にした答え：そのため・それで・そのため  
減点：特に (接続詞とはいえない)

設問2

日本語の中にはカタカナ語がたくさんある。( ② ) その数は年々増えている。[元の文 (そして)]

正解者4人  
不正解：けれども・さらに

正解とした答え：また・そして  
減点：ますます (接続詞とはいえない)

設問3

図書館で勉強しようとしたんだけど込んでいてね。うちはうるさいし。( ③ ) 喫茶店へ行って勉強することにしたんだ。[元の文 (それで)]

正解者5人  
不正解：ところが・そして

正解にした答え：それで・だから  
減点：そのため (文体に合わない)

設問4

王子様がキスをしました。( ④ ) 白雪姫は目を覚ましたのです。小人たちは驚き、( ⑤ ) 喜びました。[元の文 (すると) (そして)]

④ 正解者2人  
不正解：そして・そこで・ところが・なぜなら・それから・そうすると

正解にした答え：すると・そうしたら

⑤ 正解者1人

正解にした答え：そして

不正解：その結果・それに・また・その後・それから

設問5

「映画を見る前に近くのレストランで食事をしませんか」  
「( ⑥ ), 映画はすぐに始まりますよ」  
「( ⑦ ), パンでも買って行きましょう」〔元の文(5-1 しかし)(5-2 ジャ)〕

- ⑥ 正解者7人                      正解にした答え：しかし・でも  
不正解：さて
- ⑦ 正解者6人                      正解にした答え：じゃ・それじゃ  
不正解：なぜなら・でも

設問6 母と子の会話

「なぜピアノの練習を休んだの」  
「( ⑧ ), BちゃんとCちゃんがいっしょに遊ぼうって言うんだもん」  
〔元の文(だって)〕

- 正解者4人                      正解とした答え：だって  
不正解：でも・じゃ・うん      減点：実は(子供に言い訳として合わない)

設問7

「ビール、ジョッキで二つ、焼き鳥二人前とトマトサラダ、( ⑨ )  
フライドポテトをお願いします」〔元の文(それから)〕

- 正解者1人                      正解にした答え：それに  
不正解：そして・また・それで

## 資料2 [協力者別接続詞使用アンケート結果]

## 質問1

あなたが日本語を使うとき、よく使う接続詞は何ですか。

※丸数字は被験者番号を表す

		1 会話で よく使う	1 作文で よく使う	1 メールで よく使う	1 その他
1	あるいは	④	⑤⑦	②	②
2	以上のように		①②③⑦	②	②
3	一方		①②⑤⑥⑦⑧	⑧	
4	けど	①②③④⑤⑥ ⑦⑧		②④⑤⑦⑧	②
5	けれど	③④⑤		①⑥	
6	けれども	①③④⑦	①⑤⑧		
7	このように	②	①②④	②	②
8	最後に	①②	②③④⑥⑦⑧	⑤⑧	
9	さて	③⑤⑦			
10	さらに	①②	①③④⑤⑦⑧	①②⑤⑧	②
11	しかし	①	①②③④⑤⑦	①②	②④
12	しかも	①⑤⑦	⑦	⑤⑦	
13	したがって		①⑤⑧		
14	じゃ	①②④⑤⑥⑦ ⑧		①②④⑤⑥⑦ ⑧	②
15	すなわち		④		
16	すると	③⑤⑦	①⑦	②	
17	そして	①③⑤⑥⑦⑧	②③⑥⑦	①②⑥⑧	②
18	その結果		①③④⑤⑧		
19	そこで	③	①⑥⑦		
20	そのうえ	②	①⑧		
21	それで	①③⑤⑦	②⑤⑥⑦	①②③⑦⑧	
22	それから	①②③⑦	②⑥⑦⑧	①②③⑥⑦⑧	
23	それどころか				

神田外語大学紀要 第19号

		1 会話で よく使う	1 作文で よく使う	1 メールで よく使う	1 その他
24	それとも	①②⑦⑧		①②	
25	それなら	①		①④⑧	
26	それに	④⑥⑦	⑦	①②	②
27	第一に	⑦	②④⑧		③
28	だから	①②⑤⑥⑧	④	①②⑤⑧	②
29	だが			①⑥	
30	ただし		①⑤		
31	ただ	①⑤⑧	④	①⑤⑧	
32	だったら	①⑤⑦		①⑦⑧	②
33	だって	①⑤⑥⑦⑧		①⑧	
34	たとえば	①②③④⑤⑥ ⑦	①②③④⑤⑦ ⑧	①②⑥	②
35	次に	①②⑤	②④⑦⑧	①②	③
36	つまり	①⑤⑦⑧	①②④⑤⑥⑦	③	
37	で	①②⑤⑥⑦	②③⑧	①②⑧	
38	では	①⑤⑥⑦	⑧	②⑦⑧	②
39	でも	①②⑤⑥⑦⑧	②③	①②⑤⑦⑧	②
40	ところが	⑤⑧	⑥⑦⑧	⑧	
41	ところで	①	②⑧	②	②
42	なお				
43	はじめに		①		
44	話は変わりますが				
45	まず	①②⑤⑦	①②④⑤⑥⑦ ⑧	②③	③
46	また	①②⑤⑥	②⑤⑦⑧	①②⑤⑦⑧	②③④
47	または	①②⑦⑧	①	①②	②
48	もしくは				
49	ゆえに				
50	要するに				

日本語学習者における接続詞の習得

質問2

あなたがよく目にしたり、耳にする表現はどれですか。

		2 耳にする	3 目にする
1	あるいは	①⑤	①②⑥⑦
2	以上のように		②⑦
3	一方	①②④⑤⑦	①②④⑤⑥⑦
4	けど	①②③⑥⑦⑧	②⑦
5	けれど	②③⑥	
6	けれども	②⑤⑥⑦	⑤⑧
7	このように	④	①②③④
8	最後に	③⑧	①②⑤⑥⑦⑧
9	さて	①②③④⑤⑦⑧	
10	さらに	①②③⑤⑥⑦⑧	②④⑤⑦
11	しかし	①②⑤⑥	④⑦⑧
12	しかも	①⑤⑥⑦⑧	
13	したがって	②⑤	①②④⑤⑥
14	じゃ	①②③⑤⑥⑦⑧	②
15	すなわち		②⑤⑥⑦
16	すると	②⑤⑦⑧	②
17	そして	①②③⑤⑥⑦	⑤⑧
18	その結果	⑧	①④⑤⑥⑧
19	そこで	①	⑤⑥⑦
20	そのうえ	⑧	②⑥⑦⑧
21	それで	①③⑤⑦	②
22	それから	①②③⑤⑦	⑤
23	それどころか	⑧	⑦
24	それとも	①②⑤⑥	
25	それなら	③⑤	⑥
26	それに	④⑥	②
27	第一に	⑧	②③⑤⑥⑦⑧
28	だから	①②⑤⑦	②⑤

		2 耳にする	3 目にする
29	だが	①②⑦	⑤
30	ただし	①②	②⑤⑦
31	ただ	①②⑤⑥⑦	②③
32	だったら	①②⑤⑥	
33	だって	①②⑤⑦⑧	
34	たとえば	①④⑤⑦⑧	②⑤⑦⑧
35	次に	③④⑤⑧	②⑤⑥⑦⑧
36	つまり	②③④⑤⑦⑧	①②④⑤⑥
37	で	②③⑤⑥⑦	②⑧
38	では	②③⑤⑦	②⑧
39	でも	①②④⑤⑦	②
40	ところが	③⑤⑧	②⑦⑧
41	ところで	①⑧	②⑤⑦⑧
42	なお	⑧	④⑤⑥⑦
43	はじめに		②
44	話は変わりますが	①③	⑧
45	まず	①②④⑤⑥⑧	②③⑤⑥⑦⑧
46	また	②④⑤⑥	②③⑤⑧
47	または	①②⑤⑦⑧	②⑥⑦⑧
48	もしくは	⑧	②⑤
49	ゆえに		④⑤⑥⑦
50	要するに	①	①④⑤⑥⑦

日本語学習者における接続詞の習得

質問3

あなたが知らないもの、意味や使い方に自信がないものを教えてください。

		4 知らない	5 よくわからない
1	あるいは		③⑧
2	以上のように		⑤
3	一方		
4	けど		②
5	けれど		②
6	けれども		②
7	このように	⑤⑧	
8	最後に		
9	さて		②
10	さらに		
11	しかし		
12	しかも		②
13	したがって		③
14	じゃ		
15	すなわち	⑧	①②③
16	すると	①	⑤
17	そして		
18	その結果	②	
19	そこで	⑧	④
20	そのうえ		⑤
21	それで		④
22	それから		
23	それどころか	②⑤	④⑦
24	それとも		⑤
25	それなら		⑤
26	それに		
27	第一に		



神田外語大学紀要 第19号

		4 知らない	5 よくわからない
28	だから		
29	だが		②③④⑤
30	ただし	③	⑧
31	ただ		
32	だったら	③④	
33	だって	③④	②
34	たとえば		
35	次に		
36	つまり		
37	で		④
38	では		
39	でも		
40	ところが	①	④
41	ところで		④
42	なお		②③⑤
43	はじめに		④
44	話は変わりますが	②④⑤	
45	まず		
46	また		
47	または		⑧
48	もしくは	③⑥	①⑦
49	ゆえに	②③⑥⑦⑧	
50	要するに	②③	⑤⑥⑦⑧